

二〇一九年二月六日

一徹にクレーン車首を冬天へ
ゴトゴトと蜜柑トロッコ坂下る
風邪の床碗一杯の重湯かな
つくづくと光陰早し木の葉髪
煮上がつて筋の透けたるだいこかな

菜々
智恵子
素秀
宏虎
たか子

二〇一九年二月五日

何はともあれ書き出して年用意
冬ぬくし舞台にぐりとぐら十人
老の杖運び皇居の小春坂
カ石おしやべりしさう宮小春

たか子
なつき
なつき
よう子

二〇一九年二月四日

切干の反りはじめたる冬日向
筋堀にアートのごとく冬もみぢ
老松へしぶく岬の冬怒濤
天蓋の紅葉明かりや切り通し

満天
はく子
宏虎
智恵子

二〇一九年二月三日

拭きあぐる窓いつばいに小春空
空谷へ一瀑落し山眠る

やよい
宏虎

二〇一九年二月二日

絵馬はみな子どもらの夢七五三
眼鏡橋宙に浮くごと冬の靄
後部席占領したる大根かな
五行川遡上の鮭の跳ねる音
折箱に整列したる富有柿

なつき
愛正
こすもす
智恵子
せいじ

二〇一九年二月二日

桜島噴煙高く冬ぬくし
玻璃戸拭く小春の雲に触れもして
拭きあげて玻璃戸に余る冬日かな
上り下り幾度京の紅葉狩
木の葉髪年金記事を見逃さず

明日香
やよい
やよい
うつぎ
なつき

二〇一九年一月三〇日

冬晴れに弾む庭師の鋏かな
軒に吊る干柿簾へと夕陽
夕映えの空に冴え冴えヒ首の月
ヒ首の月凍つる触れなば折れなんと

菜々
三刀
はく子
明日香

毎日句会みのる選・二〇一九年二月八日